

自衛隊のマドンナとして日本全国の駐屯地・基地を巡り隊員の活動を活写してくれた吉永光里さんがあろう事か逝去された。小生帯広勤務中に駐屯地夏祭に防衛大の学生と共に参加して熱唱してくれたのがつい昨日のような気がする。官舎にも来てもらって家内共々歓談したのが思い出される。当時の状況は、小生のホームページ「朔東から」第97号に掲載している。参考までに。

(<http://homepage2.nifty.com/teruo3/sakutou/sakutou.htm>)

光里さんのご冥福をお祈りします。合掌！

阪神淡路大震災から10年目のさる1月16日から17日に掛けて、当時の中部方面総監部勤務者有志による阪神地区復興状況の確認と6,433名の慰霊の旅に出掛けた。

阪神高速が倒壊してバスが宙ぶらりんになった場所、交番が押し潰されて一名の警官が圧死し、近傍災害派遣で伊丹の普通科連隊が当日の朝6時過ぎには出動して一名を生存救出した阪急伊丹駅、三宮のアーケード街や駅、火災で見る影もなくなってしまう、現場の派遣隊員は箸で遺骨を収集した長田地区等を当時を思い出しつつ見て廻った。と言っても、当時方面総監部の防衛部長であった小生は、幕僚活動に追われていた為に、現地を視察・確認する機会は殆どなく、ここはこうだったと説明されても、他の者に比して当時のイメージが湧かないので困った。(現地を知らずして良く策案が出来るものとの陰の声も聞こえそうだが…)

長田区の菅原市場周辺も見事に復興している。家屋倒壊の元凶であった瓦屋根は影を潜めている。倒壊・一階部分がクラッシュせずに残っている家が幾つかあったが、確かに瓦屋根ではなかった。ある研究によると、阪神大震災で大被害を出した地域は前の大戦で戦災を免れた地域と一致すると言う。

また、狭い通りは拡幅され真っ直ぐに整備され、小公園が設けられている。被災の跡と言えば、街中にあちこちに残る更地かもしれない。復興住宅に入居したのだろうか、それとも移転したのか、主の居ない土地が震災の爪痕を僅かに残しているようだ。

● 自衛隊は活躍しなかった？

兵庫県の慰霊祭が17日午前中挙行された。慰霊祭前に、阪神淡路大震災を風化させない為に資料館が整備されていたので、当時の記憶を再度改めて鮮明に思い出す意味合いも有って当該施設を見学したが、自衛隊があればほど活躍し、被災地の救援復興に寄与したにも拘わらず、その状況を正確に伝えるものは殆ど見当たらなかった。僅かに救援状況のフィルムの中でほんの数秒自衛隊員の映像を流したのみである。展示説明資料も、中部方面総監部編纂の「阪神淡路大震災の行動史」が有るのみである。勿論、短い時間の中でチラッと見ただけなので、見逃しも有るのかもしれないが、それにしても余りにもイデオロギー的な色彩が強いと感じたのは私だけだろうか。意図的に外したと言わざるを得ない。自衛隊史上最大規模の派遣人員、延べ約164万・日の活動実績を無視するような展示は意図的と言わずして何と言う。

大事な話を印象だけで断ずるべきではないとは思いますが、何れかの機会に精査してみたい。

4回フロアーには当日の地震の状況を光と映像で再現していたが、それを見て改めて兵庫県西部地震の凄まじさに驚嘆した次第である。平成15年帯広で勤務している時に十勝沖地震に遭遇し、震度5弱を体験したが、

● 教訓は活かされたか？

神戸市内の復興状況を視察した後、中部方面総監部を訪れ、阪神淡路大震災以降の変

化状況を確認した。自衛隊の災害派遣の法的枠組みや権限、防災訓練の増加、実効性ある計画の策定、府県や市等の防災担当職員への退職自衛官の採用等、確かにある程度は改善されている。然しながら、近い将来に起きるとされる南関東、東海、南海トラフ等の大地震に充分に対処出来るのだろうか。答えは否である。防災訓練にしても展示的訓練が減少し、本部訓練が増加しつつあるのは喜ばしいことではあるが、期待するレベルには程遠い。地域住民の意識改革と識能の向上が図られたのだろうか。形は整いつつあるにしても魂が入っているのだろうか。

自衛隊独自についてみれば、阪神淡路大震災災害派遣時の教訓は見事に活かされたと言っても過言ではない。今回の中越地震に伴う自衛隊の上級司令部から第一線部隊における行動が如実にそれを物語っている。初動における各部隊等の行動、全国からの生活救援部隊の集中、各自治体との密接な関係、被災民の視線にたったキメ細かい支援の実施等、そして出来る事は何でもやると言う姿勢等々見事なまでにやってくれたと先輩としては感謝している。

阪神淡路大震災における中部方面総監部・方面隊の行動が、その後の陸上自衛隊の災害派遣の基準となっている。各部隊は阪神淡路を基準にしつつそれを超えるより適切な運用に意を用い始めているようだ。

今回の中越地震ともなう災害派遣で、唯一残念な事は、前述した自衛隊の活動が意外に取り上げられなかったことである。自衛隊が活動しているのは当たり前すぎて、ニュースバリューもないのだろうか。好意的に解釈しよう。勿論、自衛隊だけを特別扱いして隊員の活動状況をもっと大量に報道しろと言ってる訳ではない。正当・公平に報道して貰いたいのだ。

● パニック防止が肝要だ！

東京直下型の地震が惹起した場合の被害想定を政府の中央防災会議が発表した。東京の死者が 11,000 人超、帰宅困難者は最大数百万にも達すると見積もられる。自衛隊も警察も政府も被災者でもある、如何なる対策が取り得るのだろうか。ひっきりなしに迫り来る余震、火災・家屋倒壊等による怪我人等の続出、被害の甚大さに追いつかぬ治療後送能力、パニックが起きないと言う保証があるのだろうか。首都圏がパニックに陥ったら收拾がつかなくなるのではないだろうか。被災地の随所で窃盗・強盗・暴動が起きたらどうなるのだろうか。一度起きた暴動は、次第に燎原の火の如く燃え広がるのではなからうか。

阪神は高々(?) 30 万人程度の避難者数である。首都圏の場合はその何十倍・状況によれば百倍にも達するだろう。日本の心臓でもあり、日本全体もパニックに陥らないとは言いきれまい、更に全世界に与える影響も甚大であろう。

杞憂に過ぎなければそれで良い。然し、最悪に備えるのが危機管理である。そういう意味での、かかる場合にどう対応するのか真剣な検討が望まれる。不安感を煽っている訳ではないので念の為。人間が極限状況下で良識的に行動出来るという保証はない。

(了)